

出産をひかえた乳牛の病気を減らす飼い方

出産後の疾病発生を減らすための飼養管理マニュアルを提示しました。

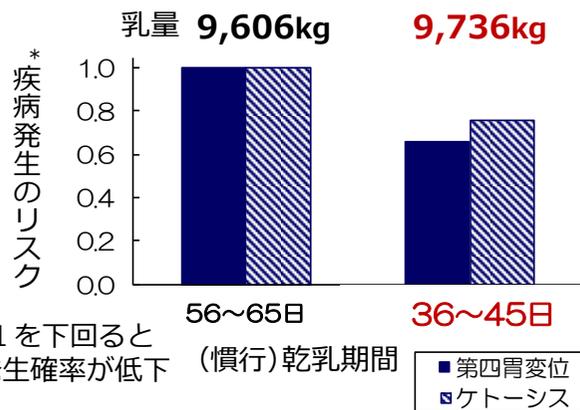
背景

- 乳牛は出産直前～出産後1ヶ月までの「周産期」に疾病が発生しやすく、周産期疾病による被害額は、北海道で年間40億円以上に及びます。
- 周産期疾病の発生リスクが低減する乾乳期間の飼養管理法は不明でした。

成果

3年間で47万頭のデータの解析により
周産期疾病のリスクを減らす飼養管理法を開発しました

1 周産期疾病のリスクを減らすため
乾乳期間を40日前後とします



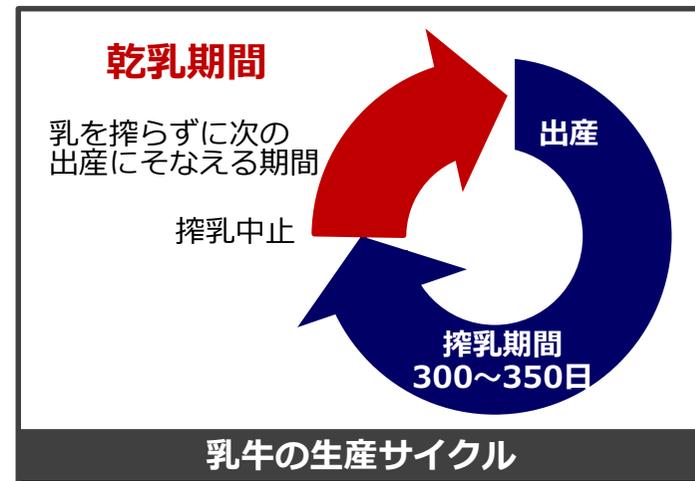
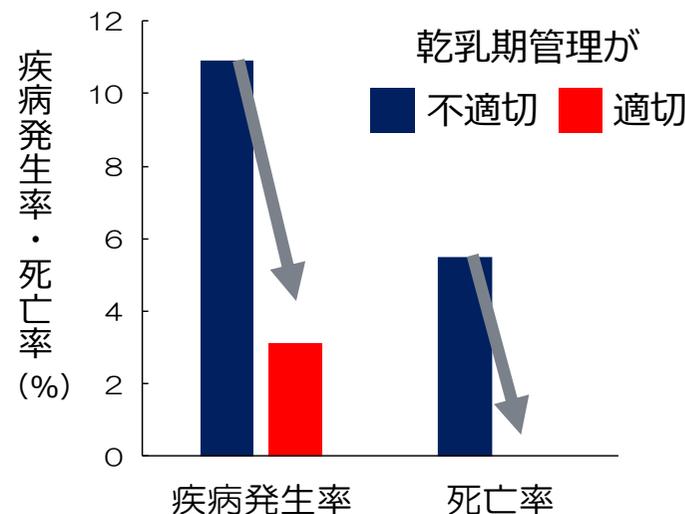
第四胃変位・ケトーシス; 周産期に発生する疾病

2 太らせないように管理し、
ストレスの少ない環境にします



のびのび・フカフカ

3 周産期疾病発生率 10.9% → 3.1%
周産期の死亡率 5.5% → 0.0%



期待される効果

○乾乳期間の飼養管理法の改善により、乳量を減らさずに周産期疾病の被害額を1/3に低減できます

協力機関：工業試験場、酪農試技術普及室、根室農業改良普及センター、十勝農業改良普及センター、北海道ひがし農業共済組合、北海道酪農検定検査協会

問い合わせ：道総研 酪農試験場 電話：0153-72-2004